

初発の5大癌のUICC病期分類別並びに再発患者数

| | 初発 | | | | | 再発 | 病期分類基準(※) | 版数 |
|-----|---------|----------|-----------|----------|----|-----|-----------|----|
| | Stage I | Stage II | Stage III | Stage IV | 不明 | | | |
| 胃癌 | 32人 | 7人 | 13人 | 20人 | 1人 | 18人 | 1 | 6版 |
| 肝癌 | 7人 | 9人 | 3人 | 2人 | 2人 | 24人 | 1 | 6版 |
| 大腸癌 | 5人 | 9人 | 18人 | 9人 | 0人 | 23人 | 1 | 6版 |
| 乳癌 | 35人 | 75人 | 42人 | 13人 | 1人 | 51人 | 1 | 6版 |
| 肺癌 | 1人 | 1人 | 1人 | 0人 | 1人 | 1人 | 1 | 6版 |

※1:UICC TNM分類、2:癌取り扱い規約

《解説》

(胃がん)

胃がんは、早い段階で自覚症状が出ることは少なく、かなり進行しても無症状の場合があります。

早期胃がんは、多くの患者さんが検診によって発見されています。症状の有無に関わらず、定期的に検診を受けることが、早期発見のために最も重要なことです。

(肝がん)

肝臓は「沈黙の臓器」と呼ばれ、初期には自覚症状がほとんどありません。肝炎ウイルス検査を受けなかったため自分が肝炎に罹っていることを知らず、医療機関での定期的な検診や精密検査、他の病気の検査の時に、たまたま肝がんが発見されることもすくなくあります。年齢別に見た肝臓癌の罹患率は、男性では45歳、女性では55歳から増加し始め、70歳代に横ばいとなります。

(大腸がん)

大腸がんは、長さ約2mの大腸(盲腸・結腸・直腸・肛門)に発生するがんで、S状結腸と直腸にできやすいといわれています。

早期の段階では自覚症状は乏しく、多い症状としては、血便、下血、下痢と便秘の繰り返し、便が細い、便が残る感じ、おなかが張る、腰痛、貧血、原因不明の体重減少などがあります。

(乳がん)

乳房は体表面に位置するため乳房腫瘍の自覚によって乳がんを発見されることが最も多くなっており、また、検診マンモグラフィの普及により、早期発見される症例も増えてきております。

(肺がん)

原発性肺がんは治りにくいがんのひとつに数えられております。病期別にみると最も治療成績がよいのは完全切除が期待できるstage Iであり、stage IIIA以上になると手術適応から外れることが多くなります。

症状がなくても健康診断を受け、胸部エックス線写真や、胸部CTで早期の肺がんを発見し、迅速に診断、治療を行うことが治療成績向上の鍵となります。

上記5大癌について、当院では手術療法のみならず、化学療法、放射線療法から緩和医療まで病状に応じた集学的治療を行っています。